

# 魚沼市「生活科」活動報告

魚沼市立伊米ヶ崎小学校 上村 勝

## 1 はじめに

生活科の課題として、「学習活動が体験だけで終わっている」「活動や体験を通して得られた気づきの質を高める指導が不十分である」等指摘されている。新学習指導要領全面実施にあたり、「具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養う」という生活科の趣旨を生かした授業実践を確実に実践することが大切であり、そのポイントとしての評価と言語活動の充実について研修を深めた。

## 2 教育課程伝達講習会

(1) 日 時 平成23年8月23日(火)

(2) 会 場 小出郷福祉センター

(3) 内 容

① 教育課程伝達講習会(井口小 木嶋教諭)

ア、評価について

評価規準を具体的な子どもの姿として表し、学習活動、評価規準、評価の視点等に一貫性をもたせることが大切である。また、どのような具体的な事実から結論付けたかという「判断の根拠」を明確にすることが大切である。

イ、言語活動の充実について

身近な人々、社会及び自然とのかかわりや自分自身について考えたり、気づきの質を高めたりするため、活動や体験したことを振り返ったり、他者と交流したりするなどの学習活動を充実させることが大切である。言葉が体験を学びに高めるのである。また、生活科の言語活動は「文字言語」だけでなく「音声言語」も含めた多様な表現活動や、その場での素直な表現が大切である。

② 情報交換

参加者が日頃の実践に基づき、工夫や困っていることなど情報交換を行った。

## 3 終わりに

活動や体験を中心とした生活科の授業は、学習の場が教室から学校全体さらに地域へ広がる。その結果、学校や地域の実情によって一律な取組とはならない。それぞれの教師の生活科の趣旨を生かしたカリキュラムをデザインする力と、授業の中で具体的な子どもの気づきを見取り、その質を高めていく力が求められていることを実感した。

